

念仏者の言葉

明日死ぬかのように生きよ

永遠に生きるかのように学べ



上記はインドの宗教家であるマハトマ・ガンジーの有名な言葉で、これを座右の銘にしている方も多いです。私たちの寿命はいつか必ず終わる事は誰もが知っていますが、寿命の終わりを意識しながら生活している人はどれだけいるでしょうか。私自身も限られた命だと知っていないながら、今を大切にせず生きているなど改めて思わさせられます。

このような毎日の積み重ねの場合、いのち終わる時が実際にまだまだ先であったとしても、大概は悔いの残るような人生になるような気がしてなりません。あるご門徒の方が「二日一生」という言葉を教えて下さいました。一日一日を今日限りの命として真剣に生きる。その結果が充実した人生に繋がるといふ事です。肝に銘じたい言葉です。

反対に学びに関しては終わりはなく、どこまでも食欲に行う事が大事です。人生をよりよく過ごしていくには主体的な学びが必要ですが、何も勉強のことだけではありません。様々なご縁を通して本当の事に気付かされていく、その気付きのアンテナを常に張る事が大事です。惰性的に過ごしていたのでは大切な気付きのご縁をうっかり通り過ぎてしまいます。自らが老いる事、病を患う事、大切な方が亡くなる事も、私たちの口からは愚痴しか出ませんが、それは本当の事への気付きを促す大事なご縁だと思います。



今年は例年以上に暑い夏だったのではないのでしょうか。お彼岸の時期に入り、ようやく秋の様子が感じられるようになりました。新型コロナウイルスの感染者は依然増加していますが、これまでのような制限がなくなり、今年は様々な夏の行事が再開されたように感じます。私たちの住む町内では四年ぶりに盆踊りが行われ、壮年会や児童会、女性部などによる夜店が出され、老若男女が集い、盛大な盛り上がりを見せました。私は壮年会のメンバーとしてかき氷やジュースの販売を行い、久しぶりに町内の方々と交流を図る事が出来た事を嬉しく思います。また町内児童会の夏のお楽しみ会として、当寺で流しそうめんを行い、子どもたちの弾ける笑顔が忘れられません。「お寺で流しそうめんなんて最高」という声も聞くことが出来ました。コロナ禍においては人が集まる事が「密を作る」として避けられてきました。社会道徳的にもこのコロナ禍の三年間は出来る限り集まるという事を避けてきたことよって、今になって改めて人との繋がりといいもの大切さを実感することが出来たのではないのでしょうか。これまでは他者との繋がりに多少の煩わしさを感じる事であっても、今になれば「人は繋がりを無くしては生きていく事はできない」と実感したはず。「コロ

ナを機会にこれまで煩わしく感じていた人との繋がりを少しずつ排除していったら、残されたものは孤独だった」と言われた方がいました。『仏説無量寿経』には「独生独死ひとりひびりひとひら」と「独去独来ひとりいりひとりこ」という言葉があります。人間は生まれてくる時と死んでいく時は独りなのだという事です。誰にも代わってもらえないと説いています。だけれども生きている間も独りでは孤独になります。何かしらの繋がりと温もりを求めているのが人間だと思えます。仏教には「バラバラでいっしょ」という言葉があります。これはそれぞれの人間が持っている違いを認めながら、他者を尊重して共に生きていくということなのです。私たちはそれぞれが違う主義主張や価値観などを持っていますが、優劣を超えて互いに影響し合っ

て存在しています。無理に自分を取り繕うのではなく、ありのままの自分として自分を尽くしていく。そして他者に対しても違いを認めて暖かい眼差しをもつて接していく。そんな世界を求めているのが私たちなのだ。だと改めて感じた夏の日々でした。



報恩講・御正忌のご案内



今年も報恩講・御正忌ごしやうきの季節になりました。宗祖親鸞聖人の遺徳いとくを偲しのぶ大切な仏事ぶつじです。報恩講は私たち一人ひとりの為の仏事です。お誘い合わせてお参りください。

●報恩講 十月十七日(火)

午前十時〜(お勤め・法話)

午後一時〜(お勤め・法話)

法話は当寺の副住職が行います。

午前の法座後にお齋(食事)もございます。

※報恩講をお迎えするに当たって、お寺の仏具磨きを十月九日(月祝)九時より行います。簡単な作業ですので、どなたでもご参加いただければ嬉しいです。

●親鸞聖人御正忌 十二月二十八日(火)

午前九時半〜(お勤め・法話)

詳細は後日改めてご案内します。

夏のお寺の風景



祠堂経会の紙芝居法話(石川正穂師)



夏の児童会お楽しみ会(流しそうめん)



外国人を招いての国際交流イベント



祠堂経会でのお斎の様子



暁天講座(野田博俊師)



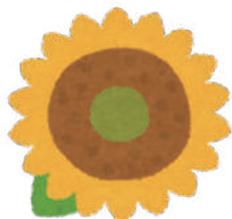
法務省・社会を明るくする運動旗の掲揚



坊守日記



今年の夏はとても暑かったですね。雨も全く降らずに、天気予報を見れば毎日熱中症アラートが出ていたような気がします。そんな暑い八月の早朝にお寺の暁天講座がありました。今年も朝日町の野田博俊師のお話でした。「信心って何」という講題で、「信」という言葉はあなたを信じるとか、信頼するという意味で使う事が多いのですが、本来の意味は「本質・まこと」という意味だということです。その法話の中で、現代人は「信」の部分が欠落していて、「行」を行うことが多いそうです。その中で地元の祭りの話が例に挙げられており、今では祭りの神輿の担い手が昔に比べて少なくなりました。神輿を軽トラで運び、町内を練り歩くという地域もあるそうです。本来なぜ神輿が町内中を回るといふ意味を考えずに、とにかく神輿を運ぶという「行」が先走りして、本来の意味が全く伝えられていないという話です。私たちも日常生活で、「行」ばかり先走りし、信が欠落しているなと気付くお話でした。とてもいい話でしたので、多くの方にも聞いて頂ければと思った暁天講座でした。



編集後記



今年の夏の甲子園は慶應義塾高校の一〇七年振りの優勝で幕を閉じました。応援の盛り上がりの様子が連日テレビで報道されていた事が、皆さんの印象に残っているのではないのでしょうか。優勝の盛り上がりと同時に、慶應義塾高校がモットーとしている「エンジョイベースボール」や、長髪姿でプレーする姿が注目を集め、旧来の価値観を覆す姿に驚かされました。私もその昔は本気で甲子園を目指していた高校球児でしたので、自分たちの時代との違いを強く感じました。表面的な姿だけではなく、教育や人生等の全てにおいて何が大切かという本質を考えていくと、このような変化というものはとても大事な事なのだと思えて教えられるました。何事も物事の本質をしっかりと見て、考える事の大切さを教えられる気がします。



派大谷 派大谷
跡聖人 跡聖人
寺の柿 寺の柿

辻徳法寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokuhoji.net>

[@temple_english_tokuhoji](https://www.instagram.com/temple_english_tokuhoji)



次回の仏教講座の予定は12月10日(日)13時半～です
10、11月は報恩講、御正忌の行事があるのでお休みします